

講義名	19-業界研究(情報通信業)/15-情報システム特講		
担当教員	上田 真由美		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

本講義は将来情報通信業で働くことを希望している学生に、その仕事内容や将来の課題・展望などについて知ってもらうために開講される。この授業の特長は、情報通信業の方に、基礎的なことから最新動向まで講義していただく点、その講義内容の補正内容を本学教員が講義することで補う点である。システムエンジニアやプログラマーだけでなく、様々な形で情報通信業に関わる方に講義していただき、情報通信業の仕事について受講者に理解してもらう。この業界を志望している、あるいはまだ明確ではないが関心を寄せている方は、是非受講してほしい。

**到達目標**

システムエンジニアやプログラマーだけでなく、情報通信業に分類される様々な組織の、業務の実態についての理解を深める。これにより、情報通信業という言葉で漠然と語られることもある業界の仕事内容について、学生がビジョンを描きやすく、またそこで働くというモチベーションが醸成できる。

なお、外部講師による講演および受講者による発表を予定して無い、オンデマンドでの受講では、到達目標を達成することが難しい科目であるため、オンデマンドでの開講はできません。但し、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通字が禁止となった場合は、通字できない期間の講義を補完するためオンライン(LIVE)で配信します。

**提出課題**

外部講師が担当された回は、事後レポートを提出すること。  
担当教員が担当する回の課題は、授業中の指示に従うこと。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

外部講師の講演後のレポートについては、外部講師から回答がある場合は紹介する。また、担当教員が担当する回の課題は、時間内に適宜コメントをする。

**評価の基準**

外部講師への質問、出席回数、事後レポートの内容、担当教員が与えた課題その他を総合して評価する。

**履修にあたっての注意・助言他**

企業の方に外部講師として来ていただきます。以下の項目をよく確認し、失礼のない態度で受講すること。

(1) 受講態度に十分注意すること  
遅刻  
授業途中での退出  
私語  
加減  
スマホをいじること  
飲食物を机の上に並べること

(2) 質問の仕方  
講師の方に質問する時は学部と氏名を名乗ってから質問すること。  
例) 学部の、です。本日は貴重なお話をありがとうございました。ありがとうございます。 について質問させていただきます。----

(3) 最終課題のための準備  
最終課題はグループでの作業を予定しています。グループ内で連絡を取り、しっかりと準備をすること。

教科書				
.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**

初回の授業で指示します。

**授業計画**

現在、調整中であり、外部講師の決定後お知らせします。

授業形態(アクティブ・ラーニング)		
<input type="checkbox"/> ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	
<input type="checkbox"/> ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ: グループワーク	
<input type="checkbox"/> オ: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ: 実習、フィールドワーク	
<input type="checkbox"/> キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

事前課題が与えられた場合は必ず資料に目を通し、事後レポートについては時間をかけて作成すること。  
なお、各自とも、外部講師の所属組織に関する予習に1.5時間、事後レポート作成に2.5時間程度の時間をかけて実施すること。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

到達目標を達成することで、「情報通信業」に分類される様々な組織の、業務の実態についての理解を深めることができる。

また、最終課題に向けて準備することで、以下の力を身に付けることができる。

- ・ 課題発見・課題解決に必要な情報を規定の適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる。
- ・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。
- ・ 他者に働きかけ、協力を取り付けることができる。
- ・ 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる。
- ・ 自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

外部講師によっては、Responを利用する可能性もあるので事前に準備しておくこと。

**実務経験の有無及び活用**

情報通信に関する企業に所属の外部講師招へいを予定している。

**備考**

該当なし